

鈴木商店研究 いま静かなブーム

サラリーマンの間で、いま鈴木商店に関する本が静かなブームを呼んでいる。直接のきっかけは桂芳男神大助教授が書いた「総合商社の源流・鈴木商店」(日経新聞)だ。桂氏のもとへ「金子直吉のドラマチックな生き方に共鳴しました」といった読者感がしょっちゅう舞い込む。ブームは日本だけでなく、外国でも火がついた。昭和2年に創業した「失敗した会社」がなぜそんなに愛されるのか。



故金子直吉翁

東南ア融和の「原点」探る



豪州からも研究者が来日

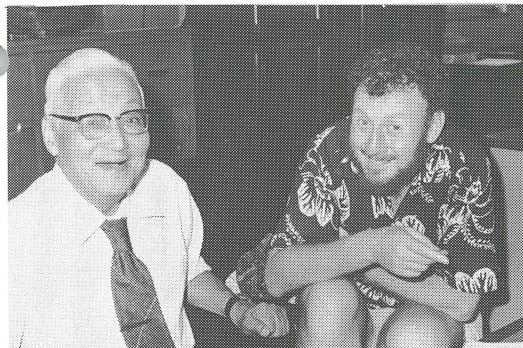
豪州から来日した研究者は、日本の土産品と海外の土産品を比較対照し、その歴史を明らかにしようとしている。金子直吉の「東南ア融和」は、その原点を探るための重要な資料である。金子直吉は、東南アジアの土産品を輸入し、日本に紹介した第一人者である。彼の活動は、日本の経済発展に大きく貢献した。金子直吉の「東南ア融和」は、その原点を探るための重要な資料である。金子直吉は、東南アジアの土産品を輸入し、日本に紹介した第一人者である。彼の活動は、日本の経済発展に大きく貢献した。金子直吉の「東南ア融和」は、その原点を探るための重要な資料である。

あり様を浮き上らせることになるでしょう。産業革命時代のオーエン、カドボリリー、普通のサラリーマンと比較しても面白いですね。当時は個人、すなわち独裁の時代。いまはグループの時代……と差はありますが、今日の不確実

の世の中で、彼の行動、そのものは非常に示唆に富んで、いると思います。ウォルトンさんは豪州に帰って二年後に一冊の本にまとめるという。海の向うで、鈴木商店の経営哲学が、広く知られたり、サラリーマ

ンの必読の書になることだろう。桂芳男先生の「総合商社の源流・鈴木商店」、神戸新聞社の「海鳴りやまず」など多くの資料をカカエ込んで、あたふたと東京へ帰って行っただ。御活躍を祈る。

な手をさした、と気がついたが、どうにもならん。見ると、銀が盤の上で泣いている。しくしくすすり泣きしているのだ。銀が泣いているのやない、泣いているのは坂田三吉の方や、坂田三吉が銀になつて泣いているのや、関根さん、わるうございしました。カンニンしておくれやすや、と地べたに這いつくばって、泣いているーと、そんな風に思えて、銀がわしやら、ワシが銀やら区別がつかなくなりよった。その時、関根さんが強情我慢の銀やけど、まあよいわ。せっかくお出でなすつたのやから暫時見のがしてやろうと、ケンソンの気もちで、そつとそのままに置いておくれはつたら、一も二もなくこつちの負けやつたのに、それをこの無礼ものめ!!とアタマから歩をついて来よつたもんやからいっぺんに局面がややこしゆなつて、勝負が逆になつてしまつたんやー「すすり泣く銀」ーその時書いた一文が、話題を呼んで映画「王将」を生み、新国劇辰巳柳太郎が人気をあふり、村田英雄の浪曲は今日迄続いていて永く世に忘れられていた彼を現代に甦えらせた。いわゆる坂田の力将棋ーつなみ将



鈴木商店研究するへんを外人

棋とまでいわれたかれ一流の早攻の戦法は、一時天下無敵のガイあつて、東の総帥関根名人に対して七勝四敗、花のさかりのいのちを誇つたこともある。そんなことからいくぶん心に驕るところもあつたのだらう。後継者につづがれ自ら名人を名乗つたため、日本将棋連盟から絶縁され、関東側棋士との対局を封じられてしまった。あれほどの天才も長い間、実戦から遠ざかつていけると、自然と実力が低下するものと見え、死ぬ三、四年前、近代理論将棋の騎士といわれた木村、花田両八段と戦つて惨敗したのを最後にさみしく消えて行つたのである。この書発刊当時小倉さんから度々三吉に就いてのいわゆる将棋の哲学めいたお話を伺つたことが思い出されてならぬい……。

八月三十一日、太陽鉦工に、へんな外人が突然やつてきた。六尺豊か、半パンツにアロハシャツの軽装で、ヒゲぼうぼうといういかつい風貌。私(柳田)が応待に出たが、たどたどしい日本語で「ワタシ、スズキに非常に興味があります。金子直吉と柳田がいかにか、スズキを育て、三井と並ぶソーゴ・ショウウシヤにのし上げたか、を研究したいのです」という。大男のわりには目付きがやさしい。聞いていくうちに世界の経営史を

学ぶ研究者であることがわかった。名前は、ロバート・D・ウォルトンといい、オーストラリア・ブリスベンのグリフィス大学で、日本史を教えている助教授である。(四十六歳) それにしても、はるか海のかなたの、オーストラリア人がなぜ、鈴木商店に興味を持ったのか、日商が豪州の貿易を手がけた実績があるとはいへ、羊毛の兼松ほど深いつき合いがあるわけでもない。彼の説明はこうだ。

「五年前日本に来て、国会図書館に通いました。そこで日本の総合商社の歴史を書いてみようと思ひ立つたわけです。いま、その資料を集めています。商社でも三井・三菱は広く知られていますが、鈴木商店は倒産したせい、三井・三菱ほどポピュラーでない。しかしアントン男、といわれた金子を調べてみますと、まさにドラマチックで興味しんしん。自分の資本がほとんどないのに多くの企業を手がけ、大商社にのし上げた。近代日本の生成のシンボルといつても過言でありません。彼のキャラクターを掘り下げることが、その時代の日本の産業の

住所変更

氏名	郵便番号	自宅住所	電話
瀬脇 文寿	108	東京都港区高輪 3-14-26 高輪ガーデン 504	03-441-0888
伊藤 守二	165	札幌市東区東苗穂町 600	
福沢 有子	587	八尾市八尾木 731-7	0727-93-1319
依田 花	145	東京都大田区田園調布本町 38-8	03-721-1714
笠松 雪	673-02	神戸市垂水区秋葉台 2-8	078-994-7781
町田 叡光	145	東京都大田区雪の谷 451	03-729-4990
田中 愛子	814	福岡市西区高取 1-27-205	